▲「顔出し」＝「品質保証」という理念のもと、責任感の強いスタッフたちが長岡を支えます。

医療で地域貢献

まちの元気を医療で支える！ エールホームクリニック

ホームクリニック〉の渋谷理事長。長岡市で生まれ、弘前大学医学部卒業後、山形や秋田など本県同様、医師不足が深刻な東北の病院に勤務し、〝医師の疲弊〟を目の当たりにしてきました。「医者がいない地域は、まず医者が疲れる、次に看護師さんが疲弊し、それが患者さんへ影響する」と渋谷先生。病院はさまざまな人を支えているので、医師不足は最終的に町の疲弊に繋がる。その経験から、医療システムの改革や、医療スタッフのボーダレス化が医師不足の状態をカバーすると考え、設立したのが〈エールホームクリニック〉でした。〝システム改革〟に〝ボーダレス化〟。一見、地域医療に関係ないような言葉が並びますが、これこそまさに、未来に必要な〝新しい医療のカタチ〟を表すキーワードでした。

長岡に必要な〝新しい医療のカタチ〟とは

〝医療システムの改革〟と聞いても、私たちに関係ない言葉のように感じますが、例えば会社を休むことなく病院にかかれたら？かかりつけの先生が不在でも、自分の症状を理解してくれる医院があるとしたらどうでしょう。「医療システムの改革とは、患者さんが病院のシステムに合わせるのではなく、医療が患者さんに寄りそうこと。」と渋谷先生は語ります。続けて「医療スタッフのボーダレス化とは、主治医制ではなく、かかりつけのクリニックすべての先生、スタッフ全員がひとりの患者さんを見るというイメージです」。その想いは「同じ志のもとに集まった仲間たちが結晶のようにひとつとなり、アメーバーのように持続性のある医療を提供すること」をイメージされ作られたロゴにも反映されています。志の高いスタッフが集まり、今までになかった医療システムで患者を支える。これこそ医師不足の長岡に必要な仕組みなのかもしれません。

4／14（水）に小児科・皮膚科・アレルギー科がスタート

現在は、内科・リウマチ科だけの同院ですが、4／14（水）より、診療時間も19時まで延長となり、小児科・皮膚科・アレルギー科がスタート。「皮膚科、内科、小児科はいずれも関連性の高い診療科。お子さんが風邪をひけば、親もかかりやすいので、親子で一緒に診療できたら患者さんは楽ですよね。皮膚科に関しては、皮膚病の原因は内科由来のことも多々あります」と、渋谷理事長。同じクリニックで、気になる症状を一度に診てもらえるのも、〝新しい医療のカタチ〟そのもの。更に来年の秋には、長岡駅前に診療時間が平日9時～21時で日曜診療もある〈エール長岡クリニック〉を開院予定。最後に「当院一番の特長は、スタッフも医師もみんな元気であること。そして他の医療機関と連携し合いながら、元気を長岡に広め、地域医療に貢献してきたいですね」と、笑顔で語ってくれました。

◀同院のロゴを使用した壁時計が印象的な待合スペース。

医師の充足度を計る「医師偏在指標」※が全国で最下位になった新潟県。長岡市は新潟県のなかでも、さらに深刻な医療提供状態です。今回は、医師不足の問題を抱える長岡で、〝新しい医療のカタチ〟を実現するため立ち上げた〈エールホームクリニック〉渋谷理事長にお話しを伺いました。

※2019年より用いられている「医師偏在指標」は、住民の年齢や性別から導き出される受診率、医師の年齢などから推定される労働量などを加味して充足状況を数値で示す指標です。

医師不足の新潟で挑む医療とは

「医師不足は、医師の数が問題じゃないんです。」と、一瞬耳を疑うような言葉を発したのは、〈エール

▲県内外から集まった熱い想いを持つ医師たち。

▶天窓から柔らかな光が降り注ぐ待合スペース。

医療法人 メディカルビットバレー
MEDICAL BIT VALLEY

▲人と人との信頼で成り立つ同院の特色を「人」のモチーフで表したロゴマーク。

お話をお伺いした
渋谷 裕之 理事長

- 内科医師
- 新潟県長岡市生まれ
- 弘前大学医学部 卒業

米沢市立病院、秋田厚生医療センターなどを経て長岡赤十字病院で総合診療医として研鑽を積む。元長岡赤十字病院総合診療科副部長。2020年4月 医療法人メディカルビットバレーを設立。

教えてドクター！ 特別編

※教えてドクターへの質問はP13の読者プレゼントのご意見・ご要望欄からお寄せください。

アレルギー科

Q 急に体がかゆくなり、ミミズばれのようになりましたがアレルギーでしょうか？

皮膚科医師／医学博士
苅谷 直之
皮膚科専門医
（日本皮膚科学会認定）

A 恐らく、じんましんと考えられるこの症状は、急に体のかゆみと「ミミズばれ」といわれる腫れぼったい赤み（膨疹）が出現します。じんましんのうちの約7割は原因不明の特発性といわれる一方、食物や薬のアレルギーでじんましんが出る場合、重症になるとアナフィラキーショックを発症し、命にかかわることもあります。詳しい検査で原因を明らかにして、治療とともに生活指導も必要です。

ここがポイント！ 命にかかわる症状かどうかの見極めが大切。まずは問診や検査で確認を。

皮膚科

Q アトピー性皮膚炎について教えて下さい。

皮膚科医師／医学博士
藤本 篤
皮膚科専門医
（日本皮膚科学会認定）

A アトピー性皮膚炎は、アレルギーを起こしやすい体質と皮膚のバリア機能が弱い体質をもとにして起きる湿疹の病気です。治療の基本は皮膚への刺激をさける、うるおいを保つなどのスキンケアです。しかし湿疹が強い時期には適切にステロイド外用を行う必要があります。最近はステロイド以外の塗り薬や新規の注射薬も登場し、治療の幅が広がりました。

ここがポイント！ 日常のスキンケアと皮膚の状態にあった適切な治療が改善の鍵。

リウマチ科

Q 人間ドックでリウマトイド因子（RF）が陽性でした。関節リウマチでしょうか？

内科医師／医学博士
田村 真麻
総合内科専門医（日本内科学会認定）
リウマチ専門医・指導医
（日本リウマチ学会認定）
アレルギー専門医
（日本アレルギー学会認定）
日本リウマチ学会 登録ソノグラファー

A 確かに7～8割の人はRFが陽性となりますが、血液検査のみで関節リウマチは診断できません。関節の腫れや痛み、こわばりなどの症状があって初めて疑われます。一方、RFは関節リウマチ以外の病気（肝疾患、シェーグレン症候群などの膠原病）で高値となったり、健康な人でも陽性となる場合も。気になる症状があれば、検査や診察を受けることをおすすめします。

ここがポイント！ リウマトイド因子（RF）が陽性だけで判断せず、詳しい検査が大切です。

小児科

Q こどもの便が硬くて出にくいことが続きます。

小児科医師
鈴木 竜太郎
小児科専門医
（日本小児科学会認定）

A 排便のたびに痛がり、便も小さくコロコロ。更に2日に1回未満の排便の場合は便秘の可能性があります。子どもの便秘は珍しくありませんが、放置しておくと便が石のように硬くなります。また、排便が辛くなり、トイレに行きたがらなくなることもあります。状況を把握するため、必要に応じてレントゲンやエコー検査（超音波）を行い、便のたまり具合を確認します。

ここがポイント！ 子どもの便秘は放置しないで、すぐ対応を！

エールホームクリニック
AILE HOME CLINIC
（4/13までは内科・リウマチ科です）

診療科目 ｜ 内科・小児科・皮膚科・リウマチ科・アレルギー科

☎0258-86-8722 〒940-2013 長岡市下柳1-10-13

4/14より小児科・皮膚科・アレルギー科スタート！ 診療時間を19時まで延長

診療時間	月	火	水	木	金
8:30～12:30	○	○	○	○	○
14:00～19:00	○	○	○	○	○

休診日：土・日・祝日　受付時間：8:15～12:00、13:45～18:30

友だち登録はこちらから▶
LINEから予約、診療情報など便利にお使いいただけます。